へ13
3737
4

七編
上
外題 曲亭馬琴

京山作
国貞画
春の夕
栄之堂壽梅

門へ13
3737
4

春はあけぼの

七福人
上の巻
京山作
國貞画

栄久文庫

むかしの遊行女は帝の玉座へも
めされ雲客ゆも交り事正しく
史ともゆかいえうされば哥を
はなし戯をのべして唱哥ぶうしひ
也をひき琴をならして宴席或
あるいは楽とし和名抄に
遊女を白拍子人の
部へれいは糸の
うつり法こそわやもうるうるうんと
の二説ありさも也あるも
俗の歌集にも遊女の哥あり
古くは万葉集に入る遊女
五人あり古今集にも
江口の白拍子は遊女の
東鑑に遊女の別當と
名目あり清盛の愛し
る祇王祇女も遊行女

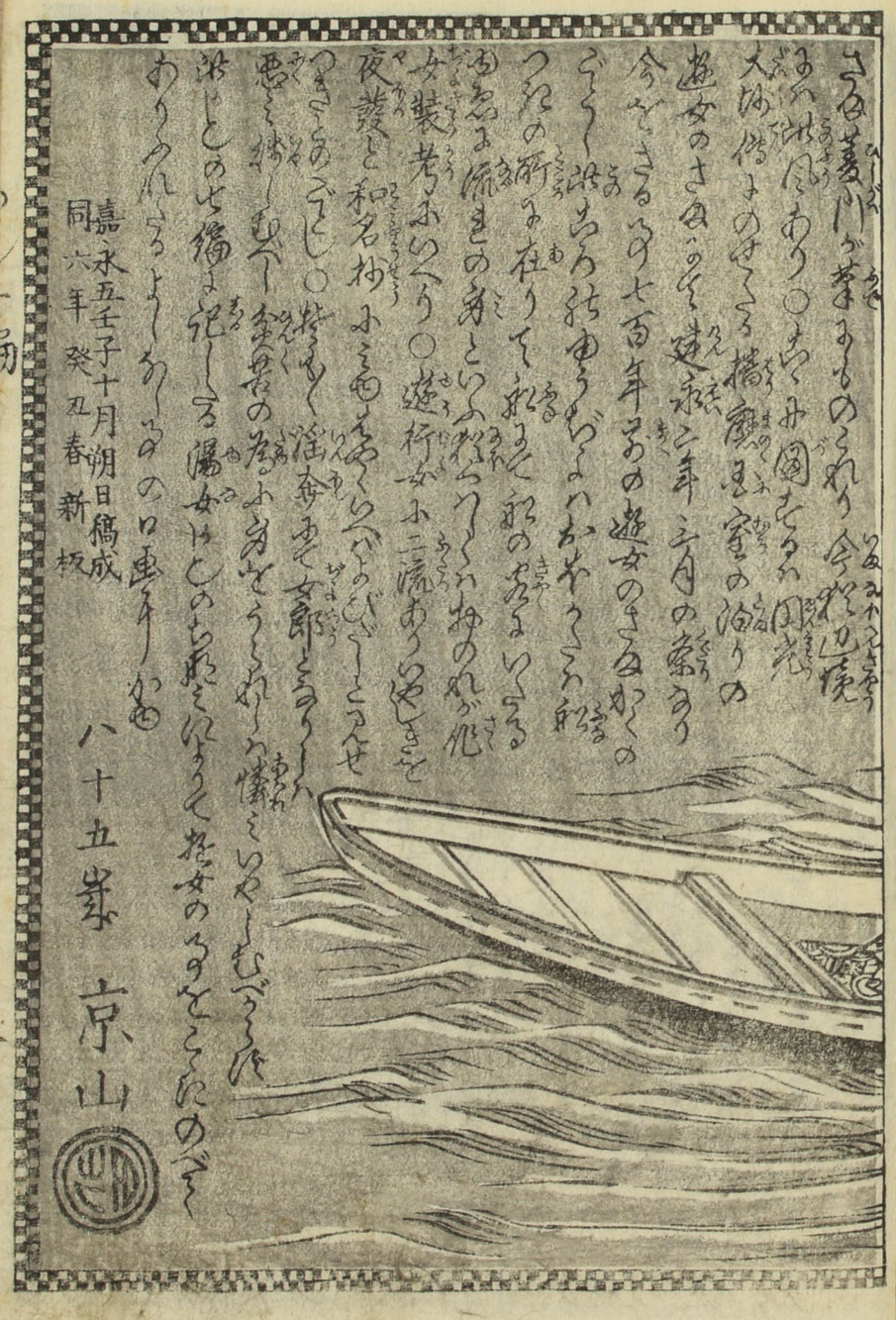
四光大師傳建永
二年三月の条に
此圖あり是れ今より
七百年前の遊行
女の容体なり

古圖をうつす

後鳥羽院ハ遊女亀菊を
御寵愛わるく攝津國
長江倉橋の二荘を
玉わりと義久記ニ
源太義平・木曾
義仲・浦冠者
範頼のごとき遊女の
腹ニうまれしと
尊卑分脈圖ニいへり
○むかし遊女をおもふ
ゆゑ曲をのこ客を
あくまで殺せる事傳ハるもしき
元禄の比なる事なれども吉原の
遊女も高位をあらく求を遊ゴ

さる菱川が筆なるものなれり今ハ絶
なんとす風あり○ちゃみ國ちゃ日花
大内傳ニよりてちゃ構ふ京の酒ゆり
遊女のさゆゑ建永二年二月の新
今ハ去る百年ゆの遊女のさゆ
ゆゑ沒ちゃ中ゆゑ
つゑの所ゆ在りて
ゆゑよ流れの
女裝考ニいへり○遊行女ハ二流あり
夜叉と和名抄ニ
つまゆごとし○
悪ゆ
沒しとの比編ニ記し
あるゆ

嘉永五壬子十月朔日稿成
同六年癸丑春新板



京山

春のみしらしの冊子七編發端

さいねん
山川のんど母
菓子あん

つぎは　うしろくたうむしりまたのち十三年ゝちとさいねん地義ごう
こんやこうのゝめかまくゝこうりけありくあるぶろふ落うふあゝもを
とゞあり内りしとりゝあるる母のすきゝとさいねんふ
このもるゝこのねがくまゞのあんどんのしろくそうむり
るこゝ義がつまのおいねがこのこまうふてきろもこの
ねんがふでありしめ六ゞゞりしてりこゝ義が
むすめとゝまてゝる
るすゝんふこゝる
るゞどもをねがる
そけり▲こてさいねんゝ六夜ゞり
山ゝ大内ゝらの介ごろ
馬かひゝあうの五千石の
村の内ゝてとりちゝ
ふゝちんやあゝて今あづろ
るゝいの山川ゝ義ゝあふ
山川りゞ母もゞちんやふありてあり
まゝんるゝこゝ義ゞりゞのゝようをまちければ
あゝまゝゝこゝ義ゞうゞるりめゝりまひとり
ゝうんりゝこゝ義の母ふもゝろゞゝとてあゝ
一目てふゞまりまゝてゝるのゝとけれゝこゝいねんりゝふも
とゝてしんゝゝ花ゞゝこゝ義ゝまゝゝおふゝ
る大ゝるゝゝのふゝんゝまゝくのゝてゞあゝゝいん
かけあゝまくゝるゝかまゝくゝふゝとゝしゞゝるゞゞもゝる六ゝ三ゝ
あゝのゝゝんゝとゞふをあゝゝゝとふちのゝるゝゝおゝゝん

大内ゝらの介長
臣山川もんど

(二)おりふつゝ髪の老女
くゝとぶゝゝのゝん行ゝ
白ゝりゝゝ
しまのゝゝ
くゝゝゝゝ
いのゝゝゝ
たゝゝん
ゝゝゝゝ
ゝゝの母と
ゝ高▲ゝそ
さいねんふゝとゝ
めゝのゝのゝゝゝ
ゝこゝ義ゝふを
ゝゝねゝ見ゝゝ
ねゝふゝゝゝふゝゝ
ゝゝゝゝゝゝおゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝんゝこゝ義ゝゝ
ゝのゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ねゝふゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ

星の井ちんくるんの
同つま
滝尾

今の
名おちく

六三郎
しと今ハおしゝく

瀬川如皐原稿 楳田好文作
御伽譚博多新織 初篇 追々出板仕候
一勇齋國芳画
いさましい筑紫浮の奇談室田貞行小性紅春丸が容色ふあつまんのろ岩養がかりつつ…ちかつ一条薄もり…鐸正がりんぞあ…栗川内せんが忠臣ふるえ家…
四十ゑんこ…

薄紫宇治曙 奔下亭種員作 六編 七編
一陽齋豊國画

邯鄲諸國物語 笠亭仙果作 十七編 十八編
一壽齋國貞画

春の夢しゝ艸紙 山東庵京山作 七編 八編
一壽齋國貞画

八犬傳後日譚 鴛水春水作 初編より追々出板
一勇齋國芳画

通天橋念之一枝 同作 二冊つゞき 切
一名佐倉當吾
五雲亭貞秀画

堀川唄真實録 笠亭仙果作 四編 五編
一勇齋國芳画

美艶仙女香 一包四十八銅 京橋南伝馬町三丁目 坂本氏製
黒油美玄香

榮久堂 江戸芳町親仁橋角 山本平吉版

京山作
國貞画

素人しぼり

京山作

國貞画

上編

下の巻

山岳平吉

半戈
二匁
五分
五匁
女中方
五十六せんあせ
ゆたかにそなり
うつくしく旬ひ入
極上ろの白粉
百四せんとう
かれのごとあり
木目六段

六三郎

八田
木八郎

八田

谷川六三郎

六三郎

八段
九段
九段

六三郎

武士のわれ百姓めがたまされとる

十段

十一段

井ぶかた太

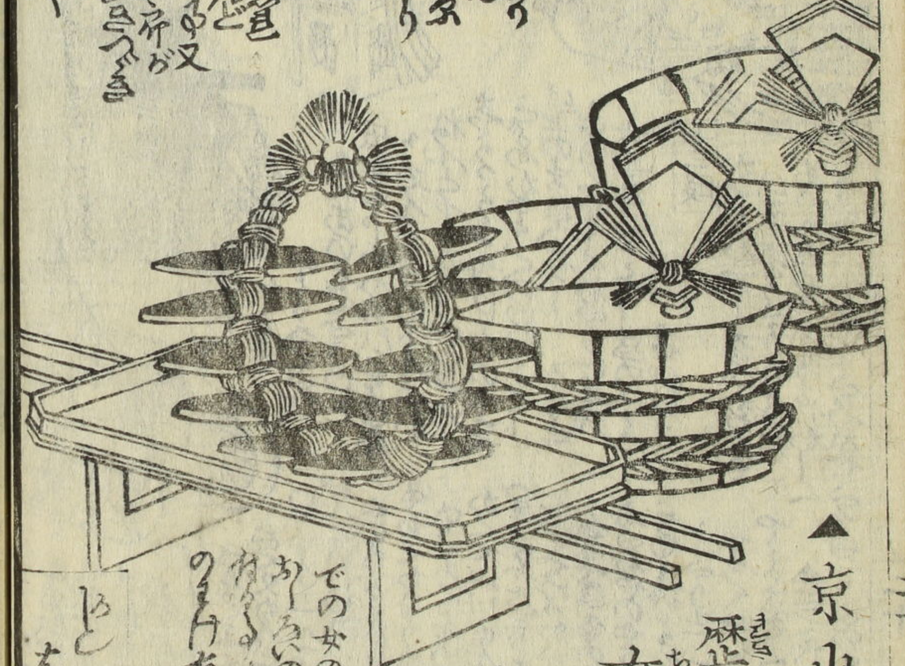
六三郎 同つまかーく

大内さらのくかのやく
山川ゑんじゑ

山川主水
谷川六三郎
六三つまより

谷川頼母
つま瀧尾

京山作
國貞画



▲京山作
歴世女装考
四冊近
この本平
神代うちの
でのおんなのようすをくべつ
ありあのもようをうつす
のまんなかにたちてあり
とと七編
をうつす

榮久堂刊行藏板略目

一二三都亭仙果作 中本袋入
陽齋豐國画 二編出板
三編四編副刻
のちとも天ぢくうつぶくふ 上あみとさらひ
ち 恵梅のこ色とさくひとてあちさねとのみ
美女あ あ加ゆ をくあるこれをこぶうう
これあるつをもとでも花やの名あるとる紙の後丸

源氏五十四帖 極彩色小錦繪
古今源氏物語 本四帖 をこぐ〜亜次夫と多
女術〜〜衣極彩色ホ刊〜これが古今極まるだ
ら次 去国 古今ひものホ三 古今上ホの後更
ロ永ロ発 のこトロ 但シ 本四帖 掛 なとう入

御誂染逢山鹿子 六編揃
ひこそしの坂人樹寿稚表の紀ようそ〜かの
ぬれつもあは不破名古屋ようそ〜ようのと
しそ例の新業丹波あ〜れ〜越西あれ
ばつそび業とそひ〜〜〜〜と紅い目ようれき
ようあり ろき 美紙あり

おさよ与三郎 与話情浮名横櫛
瀬川如皐原稿
梅田舎好文作
一勇齋國芳画
初編〜〜〜〜

春のみやびさくら
山東京山翁作
花題時五團扇
八編上

東法寺

八編の上

京山作

國貞画

榮久堂梓

羅漢中水滸傳を作りて三代啞子と生まれ續文獻通考に見えたり又紫式部源氏物語を綴りて地獄に落たるを歎かんと康頼が宝物集ふるき和漢一双の雄編なるも虚言の作は物語るまじ仏法五戒の一つなる妄語戒を破りて罪報あるべし然るに此故事も當世あるべし京山年来妄語の稗史をあまた作りしかど子にも孫にも啞子はなし余が齢朝に杖八十をとえたれど地獄に入る梦にもまぢ百業の後閻魔の前にてこの一首の歌をとなえ欲ふ方便の忘語は仏もゆるされけり我も教をまもるなり閻王必屈伏豈紫女の例を怖んやとぞんじてこの八編を作れり

嘉永七甲寅新春　三九　八十五歳京山題

○しゞ
情容
六三郎

○鎌倉八幡前の
湯女しゞ
実ハ大内
義々良之丞

○飯盛女
関の屋
小万

○初編より出る
壮での
三吉

家来山川越蔵の
娘ゑ

善

善

○五尺深五郎が
後妻お竹
忠義の為故主へ
金子を与へ

○馬卒の
長
駅馬
源治

○深五郎が前妻
お紺

孝の為しるし州の八編上巻

多づるひがん六

次五

四八の女ざるたのむ木ぶくろ
ざるづくしのがん六
二三日ハこゝろく
あそこゝふあり
ぬでのこゝすゝ
られるに日めの
のあさがん六五
八あるぎこゝさ
まざらりけのある
こゝさん六十一の
つりこゝまろく
あそこゝろ人日も
つゞこゝ
つゞされる
もあいこゝ
ぬでのこゝ右と
あげこゝあをん
六おこゝふれろ
「三右ハこゝとあ
村あそこゝぢ子ぞものこゝ

三
ざるづくしかん六
なぎこゝれこゝまこゝ
八へん初恋

女ともかんざしむぎん
ひさのところ
二
五尺そあるろうのもちのまま
お竹
えびちゃん
平つま
かんざし

詩文帳
小湖伝帳
入用記帳
おこん
小さな女房

うぶぎやの二人
おこん
その二
お所

長八
長八
おとん
人の

榮久堂刊行藏板略目

三都妖婦傳　中本袋入　三編出板　四編五編刷刻　笠亭仙果作　一陽齋豐國画

花紅葉解脱絹川　一名新くらゑ物語　三冊よみ切　好文作　國芳画

御誂染逢山鹿子　六編揃　種彦作　豐國画

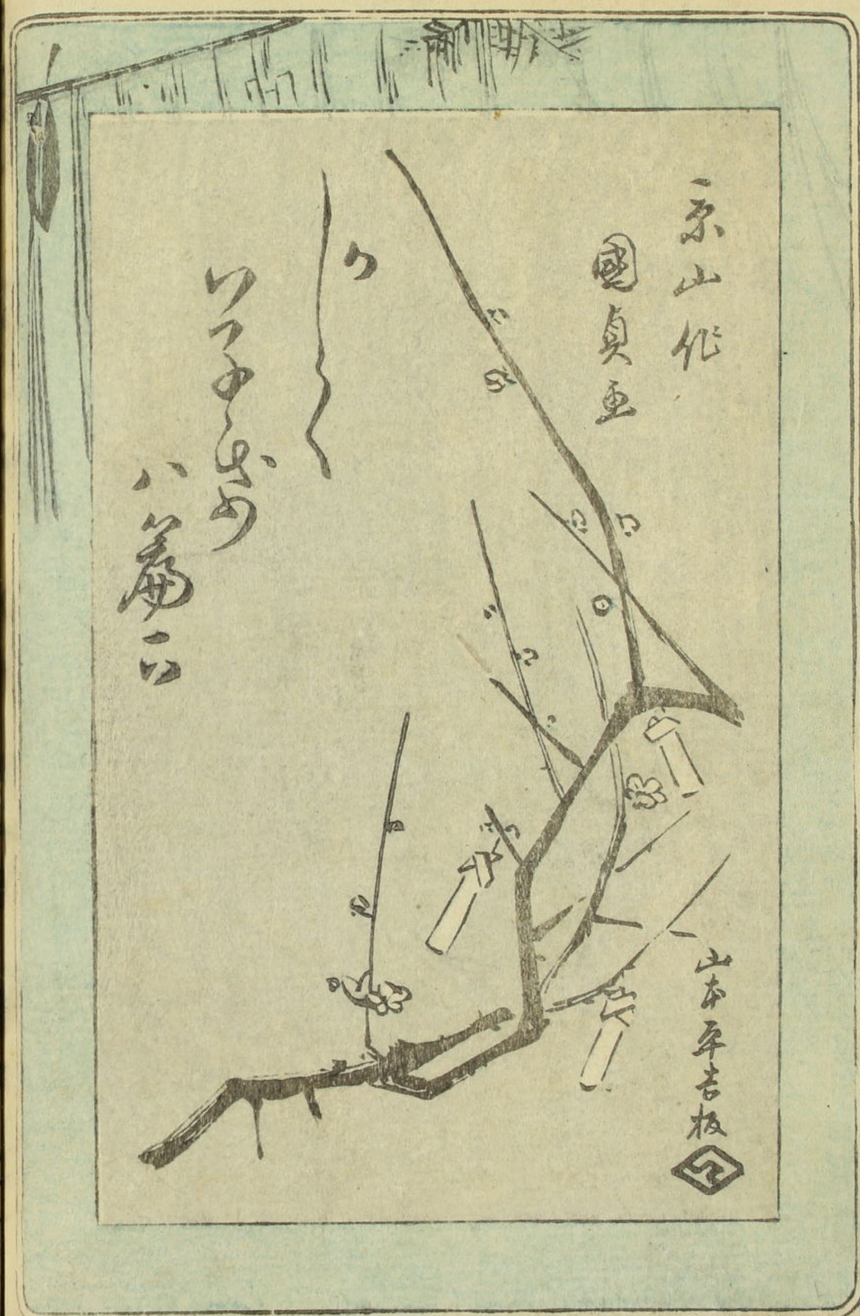
薄紫宇治曙　柳下亭種員作　一壽齋國貞画　七編　八編

仙女香　一色四文銅　美玉香　坂本氏

御伽譚博多新織　四編　五編　六編　好文作　國芳画

八犬傳後日譚　四編　五編　六編　出板　爲永春水作　一勇齋國芳画

春蝶樓國貞画
八編下
榮久堂板



三
京山作の州さしの州さしの下書
しきりとあつてけつのせん
せんちの作とちがひ
うくるくるふうきんを
アのいろあくのあつ
まつせうくかいてある
くらくまでやらう
あまで一銀さ二丁目京伽
みせ●續百九くれ一五ホト
オ一五こんの菜物おりえをよくあんを
その目のちくちくちくまくまくま

本文五張

長八
長八
長八

七段
八段
馬くらからくれね馬源次

馬くらべ
これ馬源次

四

三

おとん

十郎

めもり小万

秋やのこと葉

十一

十二段

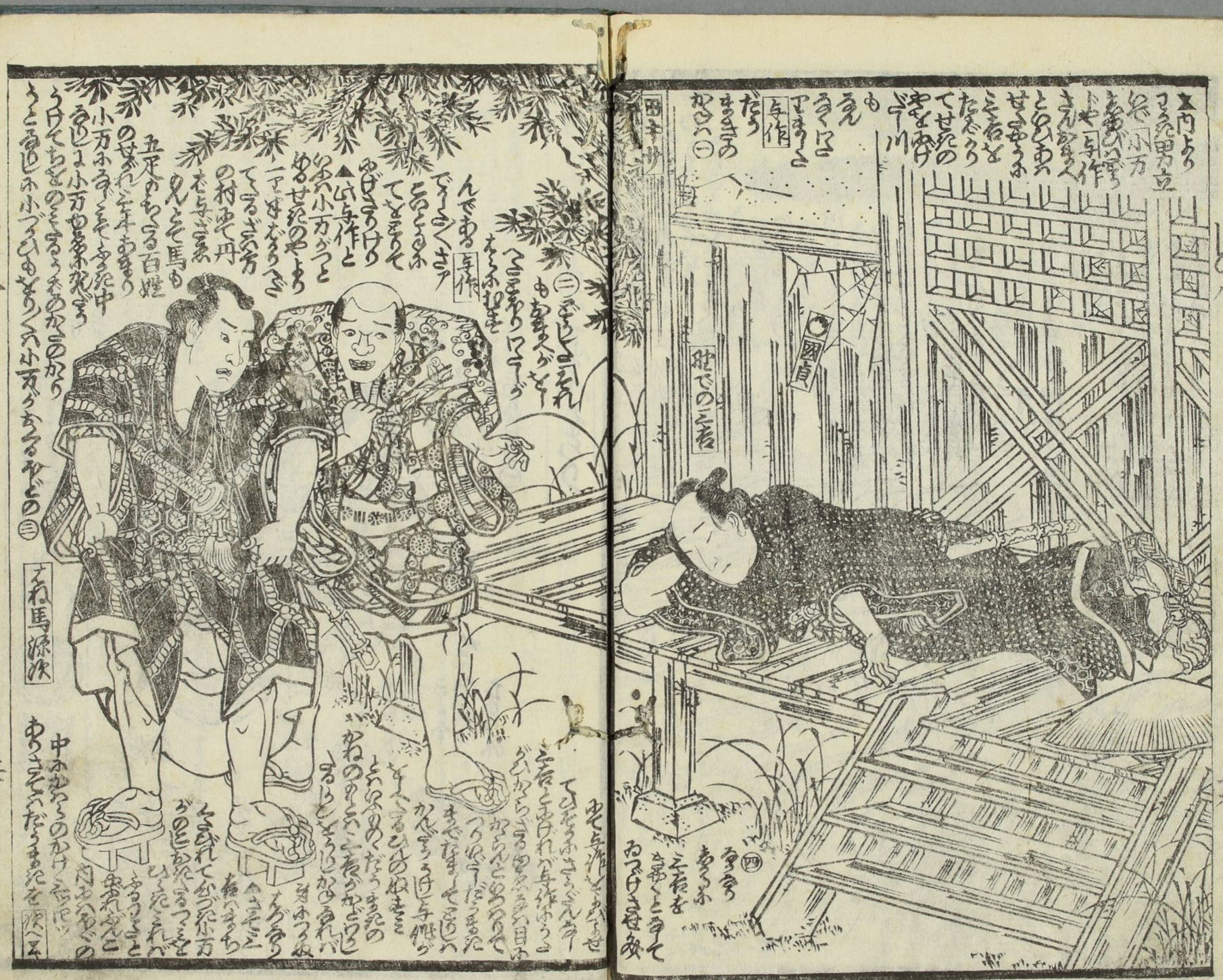
さて小方のもちあるものとおもひ小でこれをうばふべく大石をもつて水に投つけ水にのの字のごとくなりてうかびいでたるを見て

三右
小方

十三段

さてつゝみのやりければ小方かりうるをぬぎすてゝ立ぶかりをあたまにかぶりてなんとかせつゝみのやりけれ

立ちたれば次へ


図貞
牡での二左衛
田キサ
二左衛を
あくと手て
ねつけさせ
中と与作とあらせて
二左衛とまけれか与作はうこ
ぐいかからざるのをみて目は
からんとおつりてつりぐだまた
まだなまとそこにハ
かんぐるこけ与作ぐ
ちくるひのはまこ
ちいろのめくだうまたの
ねののこ二左衛かどりこ
るらとそこにかあれハ
ちくびれて小づ小方
ぐのとかたるつこを
ひくたこれが
ちうこと
あれぐこ
内ハあぐの
中ハかたくのかけくこ
あらこそハだうまたを
八五
二十
二左衛
二左衛
二左衛

京山老人作　國貞画

十二隠下

しの州る八屋んをろり

嘉永七年甲寅春新版目録

与話情浮名横櫛　三編六編よみ切　梅田舍好文作　一勇齋國芳画

邯鄲諸國物語　十八編十九編　笠亭仙果作　一壽齋國貞画

春の名ごり草紙　八九編　山東庵京山作　一壽齋國貞画

堀川唄真實錄　五編六編　仙果作　国芳画

川中島甲越軍記　前後四冊くのゝ切　玉蘭作　貞秀画

桃太郎鬼嶋記　椿説鬼魅談語　初編ヨリ五編迄　爲永春水作　一壽齋國貞画

地本草紙問屋　榮久堂　江戸芳町親仁橋角　山本平吉發兌

春のみ
しる
芋汁

京山菊化　八編
國貞画

甲寅新刊
榮久堂梓